

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

檜葉町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福島県双葉郡檜葉町

3 地域再生計画の区域

福島県双葉郡檜葉町の全域

4 地域再生計画の目標

本町は、昭和 55 年以降、平成 7 年の 8,476 人をピークに減少に転じたものの、平成 17 年までは概ね 8,000 人前後の人口を維持してきた。しかし、平成 23 年に発生した東日本大震災とその後の原子力災害により、全町避難を行った後、町の大半が警戒区域に指定された。その後、平成 27 年に避難指示が解除されたことにより、本格的な住民帰還が始まり、居住人口は令和 2 年に 4,000 人を越え、令和 3 年 7 月 31 日時点において 4,131 人となっている。檜葉町人口ビジョンの推計では、人口帰還のピークを令和 2 年としているものの、その後は町内居住者が減少し、2025 年の中位推計値を 4,787 人としている。

年齢 3 区分別人口をみると、平成 29 年 12 月 31 日時点において、年少人口 163 人（7.4%）、生産年齢人口 1,200 人（54.5%）、老年人口 840 人（38.1%）となっており、震災前の平成 22 年と比較すると（年少人口 1,021 人（13.3%）、生産年齢人口 4,684 人（60.8%）、老年人口 1,995 人（25.9%））、高齢化率が高いことがわかる。

自然動態について、出生数は震災の翌年の平成 24 年に大きく減少したものの、その後回復しており、死亡数は震災により大幅に増加したものの平成 26 年には震災前の水準に戻っている。死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いており、令和元年においては 63 人の自然減となっている。合計特殊出生率は、近年は低下傾向にあり、現在は福島県と同水準にある（平成 20 年から 24 年までの 5 年平均

で1.48)。社会動態は、震災等の影響によって大量の転出が発生したものの、全町避難の状況が継続していた期間では基本的に転入は生じず、転出数が転入数を上回る社会減の状態が続いており、令和元年においては72人の社会減であった。なお、前述のとおり人口帰還のピークは令和2年と見込んでいる。

人口が減少すると、地域経済が縮小し、住民の生活や行政が成り立たなくなるといった課題が生ずる。

このような課題に対応するため、本計画において、以下の基本目標を立てて具体的な事業を実施することで、自然動態、社会動態を改善させ、人口減少と地域経済縮小を克服し、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立する。

- ・基本目標1 若い世代に魅力のある雇用を創出する
- ・基本目標2 新しい人の流れをつくる
- ・基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・基本目標4 笑顔があふれるまちをつくる

【数値目標】

5-2 の①に 掲げる 事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する地方版 総合戦略の基本目標	
				第1期 (2020年度 まで)	第2期 (2021年度 以降)
ア	就労者における20～30歳 台（若者）の割合※	27%	32%	基本目標1	-
	檜葉町への定住者数	80人／年	84人／年	-	基本目標1
イ	年間来町者数※	1,000人	6,300人	基本目標2	-
	観光客入込客数	79.8万人	90万人	-	基本目標2
ウ	「子育てが楽しい」と感 じている保護者の割合※	75%	90%	基本目標3	-
	アンケートで「檜葉町は 子育てしやすい・どちら かというとしやすい」と 回答する人の割合	35.1%	50%	-	基本目標3
エ	孤独の時間※	5時間／日	5時間未満／日	基本目標4	-
	「人との繋がり指標」が 12点以上の人※	10歳代73.0%	10歳代73.0%以上	基本目標4	-
		20歳代60.8%	20歳代60.8%以上		
		30歳代51.8%	30歳代51.8%以上		
		40歳代46.3%	40歳代46.3%以上		
50歳代53.7%		50歳代53.7%以上			
60歳代64.7%	60歳代64.7%以上				
70歳代74.8%	70歳代74.8%以上				
「幸せ度」7以上の人の 割合	55.6%	60%	-	基本目標4	

※2020年度までに実施した事業の効果検証に活用。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

檜葉町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 若い世代に魅力のある雇用を創出する事業
- イ 新しい人の流れをつくる事業
- ウ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業
- エ 笑顔があふれるまちをつくる事業

② 事業の内容

ア 若い世代に魅力のある雇用を創出する事業

町の素晴らしい環境と資源を活かし、豊かな自然環境の中での暮らしとの両方を提供することで魅力ある就労環境をつくり、若い世代の人口を呼び込んで、生産年齢人口の回復を目指します。

【具体的な事業】

- ・J ヴィレッジと連携して行うまちづくり事業
- ・脱炭素化推進事業
- ・サツマイモ栽培農業者支援事業
- ・町内農産物商品化推進事業 等

イ 新しい人の流れをつくる事業

魅力的な体験型観光コンテンツづくり、イベントの企画に取り組むなど、檜葉町の良さをPRします。また、檜葉町サイクリングターミナルがある町という特徴を活かし、サイクリングをキーワードにしたまちづくりを推進することで町の来訪者を増やします。

【具体的な事業】

- ・町の魅力を伝える施設整備事業
- ・来町者受入施設整備事業 等

ウ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業

ワンストップで対応する子育て支援や子育て世代のニーズを踏まえた支援など、安心して出産・子育てすることのできる環境づくりやきめ細やか

に、子どもの個性に応じた能力を引き出す教育を推進します。魅力ある子育てや教育環境を積極的に情報発信し、町外からの修学促進、移住促進へとつなげます。

【具体的な事業】

- ・小学校におけるキャリア教育推進事業 等

エ 笑顔があふれるまちをつくる事業

“農”を活かした多面的な取り組みの展開やまちの子どもたちが新たな知識を学ぶことの楽しさを実感してより一層の好奇心・知識欲を育みながら暮らしていけるような環境づくり、町民の健康寿命を延ばすためのさまざまな健康対策の3つに取り組むことで、楽しく、知的興味に満ちた、健康で笑顔があふれるまちをつくりたい。

【具体的な事業】

- ・コミュニティセンター機能強化事業
- ・歴史、文化を活かした生涯学習推進事業
- ・まちを元気にするスポーツクラブ支援事業 等

※ なお、詳細は檜葉町まち・ひと・しごと創生総合戦略<第2期>のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

800,000 千円（2021年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度10月頃（町勢振興計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理時期）に外部有識者による効果の検証を行い、翌年度以降の取組方針を策定する。

検証後は、その結果を速やかに檜葉町ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで